

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	名古屋未来工科専門学校
設置者名	学校法人 都築学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	機械・自動車工学科	夜・通信	70単位	6単位	
	建築デザイン学科	夜・通信	113単位	6単位	
	バイオ工学科	夜・通信	38単位	6単位	
	IT学科	夜・通信	39単位	6単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP「情報公開」 http://nftc.tsuzuki.ac.jp

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋未来工科専門学校
設置者名	学校法人 都築学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP「情報公開」
<http://nftc.tsuzuki.ac.jp>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社取締役	※	法人の運営体制の チェック機能
非常勤	名誉宮司	R5.4.1～ R7.3.31	法人の運営体制の チェック機能
(備考) ※ 評議員選出理事であり、理事としての任期はない。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋未来工科専門学校
設置者名	学校法人 都築学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1 次年度授業開始前までに、各科目担当教員が使用教科書(3ヶ月前)を選定し、科目の目標に基づき、授業方法・内容・成績評価等について検討、シラバスを作成し、学校において最終点検・審査(内容不備な場合は再提出)している。</p> <p>2 授業計画書(シラバス)の公表</p> <p>(1) HP「情報公開」http://nftc.tsuzuki.ac.jp</p> <p>(2) 事務所に設置 閲覧申請者名簿に記入、閲覧。本書類が必要な場合は、証明書等申請により、提供(印刷・事務手数料実費)する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>事務所に設置(閲覧申請者名簿に記入、閲覧) HP「情報公開」http://nftc.tsuzuki.ac.jp</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>1 成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。 試験は、筆記・口述・実技・レポート及び論文審査とし、前期(4月～9月)・後期(10月～2月)の期末に実施する期末試験(年2回)及び履修進度に応じて実施する平常試験(随時)がある。</p> <p>2 各学科当該科目の期末試験・平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は、絶対評価の4段階(優・良・可・不可)である。</p> <p>3 各科目試験の不合格者に対しては、再試験を実施して再評価する。 授業時間の出席80%未満の者は単位を付与しない。但し、校長が必要と認めた場合は補講(レポート提出含む)を実施して再評価する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p>	
<p>1 学生便覧を学生個々に配布し、説明する。 各学科当該科目の期末試験・平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は、絶対評価の4段階であり、優(A:100点～80点)、良(B:79点～70点)、可(C:69点～60点)、不可(D:60点未満)で、可以上合格、不可は不合格とする。</p> <p>2 成績評価については、前期・後期の期末時、各学科個々に試験結果(科目の平均点含む)・出席状況について、文書(成績表)により、個人面談し配布する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧(成績評価・単位取得)の配布
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p>	
<p>1 学科ごと卒業に必要な総授業時間数及び単位について、厳正に審査して卒業を認定する。</p> <p>2 学生便覧の配布、説明</p> <p>(1) 教育課程表</p> <p>(2) 卒業の要件</p> <p>ア 全科目合格点に達し、各学科所定の単位数を取得していること</p> <p>イ 当該学年の学費を納めていること</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧(教育課程表、卒業要件の掲載)の配布 学生個々に卒業の認定について通知

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	名古屋未来工科専門学校
設置者名	学校法人 都築学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HP「情報公開」 http://nftc.tsuzuki.ac.jp
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	機械・自動車工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	106 単位	68 単位	0 単位	38 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		94人	73人	2人	8人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
講義・実習により、1年次19科目（1080時間58単位）、2年次12科目（1080時間48単位）、卒業時2160時間106単位を取得

成績評価の基準・方法

（概要）
科目成績表は、絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（C：69点～60点）、不可（D：60点未満）で、可以上を合格、不可は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）
卒業の要件
ア 全科目合格点に達し、各学科所定の単位数を取得していること。
イ 当該学年の学費を納めていること。

学修支援等
(概要) 各種試験・検定の受験対策を講じて、必要な資格を取得させている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100.0%)	1人 (3.0%)	31人 (93.9%)	1人 (3.0%)
(主な就職、業界等) 自動車整備、機械設計、製造等			
(就職指導内容) ビジネスマナー教育（一般常識マナー・教養・履歴書等書き方・面接指導）及び 部外講師によるガイダンスの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2・3次元CAD利用技術試験、危険物取扱者試験、トレース技能検定試験、電気自 動車等の整備業務に係る特別教育、ガス溶接技能講習等の合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	6人	9.1%
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、就職、経済的困窮		
(中退防止・中退者支援のための取組) 勉労意欲の振作、きめ細やかな個人指導、金銭管理（アルバイト含む）指導		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	建築デザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1 2 1 単位	84 単位	0 単位	34 単位	3 単位	0 単位
			単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		34人	5人	5人	5人	10人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 講義・実習・実験により、1年次15科目(1200時間59単位)、2年次15科目(1170時間62単位)で卒業時2370時間121単位を取得
成績評価の基準・方法
(概要) 科目成績表は、絶対評価の4段階であり、優(A:100点~80点)、良(B:79点~70点)、可(C:69点~60点)、不可(D:60点未満)で、可以上を合格、不可は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の要件 ア 全科目合格点に達し、各学科所定の単位数を取得していること。 イ 当該学年の学費を納めていること。
学修支援等
(概要) 各種試験・検定の受験対策を講じて、必要な資格を取得させている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100.0%)	1人 (5.6%)	17人 (94.4%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 建築施工、建築設計、建築営業等			
(就職指導内容) ビジネスマナー教育(一般常識マナー・教養・履歴書等書き方・面接指導)及び 部外講師によるガイダンスの実施			

(主な学修成果(資格・検定等)) 建築CAD検定試験、福祉住環境コーディネーター試験、建築施工管理技術検定試験等の合格および建築士受験資格の付与
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	3人	8.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 勉労意欲の振作、きめ細やかな個人指導		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	バイオ工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	117 単位	90 単位	0 単位	4 単位	23 単位	0 単位
			単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		28人	0人	1人	9人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 講義・実習・実験により、1年次15科目（1080時間59単位）、2年次15科目（1080時間58単位）で、卒業時2160時間117単位を取得</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 科目成績表は、絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（C：69点～60点）、不可（D：60点未満）で、可以上を合格、不可は不合格とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業の要件 ア 全科目合格点に達し、各学科所定の単位数を取得していること。 イ 当該学年の学費を納めていること。</p>
学修支援等
<p>（概要） 各種試験・検定の受験対策を講じて、必要な資格を取得させている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 （100.0%）	0人 （0.0%）	10人 （90.9%）	1人 （9.1%）
<p>（主な就職、業界等） 環境、食品、薬品、農業等</p>			
<p>（就職指導内容） ビジネスマナー教育（一般常識マナー・教養・履歴書等書き方・面接指導）及び 部外講師によるガイダンスの実施</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 公害防止管理者試験(水質)、毒物劇物取扱者試験、環境社会検定、登録販売者試験、 バイオ技術者認定試験等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 勉労意欲の振作、きめ細やかな個人指導		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	IT 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	97 単位	50 単位	0 単位	47 単位	0 単位	0 単位
			単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		52人	25人	1人	5人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 講義・実習により、1年次17科目（1080時間52単位）、2年次14科目（1080時間45単位）で、卒業時2160時間97単位を取得</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 科目成績表は、絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（C：69点～60点）、不可（D：60点未満）で、可以上を合格、不可は不合格とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 卒業の要件 ア 全科目合格点に達し、各学科所定の単位数を取得していること。 イ 当該学年の学費を納めていること。</p>
学修支援等
<p>（概要） 各種試験・検定の受験対策を講じて、必要な資格を取得させている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 （100.0%）	0人 （0.0%）	7人 （87.5%）	1人 （12.5%）
<p>（主な就職、業界等） プログラマー、システムエンジニア</p>			
<p>（就職指導内容） ビジネスマナー教育（一般常識マナー・教養・履歴書等書き方・面接指導）及び 部外講師によるガイダンスの実施</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者試験、ITパスポート試験
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	11人	35.5%
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、転学、経済的困窮		
(中退防止・中退者支援のための取組) 勉勞意欲の振作、きめ細やかな個人指導		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
機械・自動車工学科	0 円	700,000 円	180,000 円	その他は施設充実費 9 万円、 実験実習費 9 万円
建築デザイン学科	0 円	700,000 円	180,000 円	
バイオ工学科	0 円	700,000 円	180,000 円	
I T 学科	0 円	700,000 円	180,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
授業時間外において、検定試験の対策講座及び実習を実施している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 名称：自己評価表 入手方法：事務所に設置 (閲覧申請者名簿記入・閲覧)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 基本方針：教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的な使命を達成する。 実施方法：学校関係者評価委員会 (定期年 1 回開催 (6 月)、随時) 体制：委員長 (1 名)、委員 (2 名) の 3 名で構成 主な評価項目：学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、財務 等 評価結果の活用方法：6 月の学校関係者評価委員会の結果を踏まえ、学校長を責任者とし実施できるものは 10 月 (後期) から逐次実施し次年度の 4 月を目途に完成させる。 また、中長期にわたり改善が必要となるものは委員会の都度判断をあおぐ。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
企業	2023年7月1日～2025年6月30日 (2年間)	元職員
一般市民	2023年7月1日～2025年6月30日 (2年間)	元職員
一般市民	2023年7月1日～2025年6月30日 (2年間)	元職員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 名称：学校関係者評価表 入手方法：事務所に設置 (閲覧申請者名簿記入・閲覧)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://nftc.tsuzuki.ac.jp
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H123310001374
学校名	名古屋未来工科専門学校
設置者名	学校法人 都築学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		20人	15人	20人
内訳	第Ⅰ区分	—	—	
	第Ⅱ区分	—	—	
	第Ⅲ区分	—	—	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				20人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		—	0人
計		—	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	0人
計		—	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。